

東京片貝会報

発行所 東京片貝会
港区芝公園2-11-4
TEL 03(433)5925

昭和56・春の集いのご案内(22回)

青葉が目にし、みるよき季節となりました。みんなでもまた一堂に集まって、楽しいひと時を過ごしたいと存じます。会場も、昨年と同じ平和島温泉にきましてあうことが出来ます。誘いあつて、ご参加ください。どうぞ、お友達同士で誘いあつて、ご参加ください。お待ち申しております。席いたいた方や、会費を納めてください。方々にも、ぜひ、盛會になるよう、祈っております。

案内の届かない方も、全員にさしあげました。従って、埋めつくすほどの盛會になるよう、祈っております。

東京片貝会 役員一同

会日 6月7日(日) 午後一時(正午より受付)
会場 大田区平和島温泉(午前10時より開館)

会費 東京片貝会員の遊戯場あり、温泉はタオルも
参加費 東京片貝会員の遊戯場あり、温泉はタオルも
郷里の物産を割引き、値販いたします。

会の動き

五十六年新年会 1月25日
二面参照

会の運営について 2月22日

役員有志四名で、今後の運営上の諸問題について話しあつた。

青嶽荘旅行 4月12・13日

三面参照

会計監査 4月19日

五十五年度の会計監査を実施、

案内範囲と会費について
総会のご案内については、名簿に載っている全部の方に出しておりました。然し今回郵便料の値上りが大幅でしたため、やむを得ずこれまで一回でも会費をいただいた方に限定させていただきます。
あしからずご了承下さい。
案内の届かなかつた方でも、ご出席をお待ちしています。同級、知人で誘いあつて、ぜひ、お出でください。ますよう念じています。尚振替用紙を同封申しました方は、恐れ入りますが、会費を当日又は振替にてお願い申し上げます。
年額八百円です。

会長、会計、監査五名が参加した小川氏のみ所用の為欠席した。

総会準備会 5月10日

役員及び各年次の方にお集りいただき、総会や会の運営などについて、ご意見をお聞きした。

また、当日は会報及び案内状の発送についても、お手伝いをお願いした。

「ヤングの集い」について

第3回の集いを54年2月に開いて以来、昨年は開催するまでに至りませんでした。
そこで、青年部の方々の意見を承ったりして、構想を練っているところです。最近就職、進学してきた方を中心に激励会という内容にしては……と考えています。
中学校にお願いして、対象になる方々の把握に努めています。最近では以前より、上京者も少なくなっている様子で、その実態を正確につかんだ上で、具体化を進めます。

1971年の新年会

隅田川面にとどろく太鼓 アサヒビルホール（1月25日）

冬晴れのよい日和になったが、隅田川を渡る強い風が身にしみた。こんどの新年会は、大矢幸治さんの世話でアサヒビルホールで開催した。大矢さんは戦前から、浅草に住み、この会場を紹介してくださった。

特別会員の太刀川太郎さんが、久々で出席くださった。秋祭りの会報記事が縁となった。又新潟県人会の中山さんも、お出でいただき嬉しいことであった。

会長挨拶ののち、お正月に帰郷された佐藤祐一さんの、郷里近況報告があった。今年の雪は、上から下へおとすのではなく、上に掘りあげるといふ状況、というくだりには、一同思わず息をのみ、豪雪と闘っている故郷の人達の労苦を察したのである。

佐藤さんは、先年南極探検隊に参加した和秀さんの令兄で、東芝の有力な技術的人材として、目下活躍中の方である。

このあと青巖荘の広井三代次さんから、武見太郎先生（本会特別

会員）の健康回復の現況について、お便りを中心に報告があった。広井さんの乾杯で懇親会の幕が開く。久々ぶりに出席の丹治きみさんが得意の日本舞踊を披露される、また、ベテランの横山秀雄、山田利雄さんは本格的な衣装でそれぞれ踊ってくださった。山賀豊司さんは腕に覚えのある三味線を弾いて自らも歌い、且友田正雄、丹治さんのために伴奏もされた。

明るい奥田佳子さんの歌、先輩格の神林徳次さん、若手の藤塚悟、大塚国夫さんなどつきつきと出演され、場内はいっそう賑わった。恒例の福引は相崎勇次、大矢幸治さんの世話、採算無視のたくさんの賞品に、みんなやんやと喜ぶ。おしまいに、みんなで盆踊りを踊り、木遣り唄を大合唱。楽しい響きはいつ果てることもなく、隅田川の川面にとどろいた。

○出席者（九二名 敬称略）
来賓

特別会員 太刀川太郎
新潟県人会 中山比天来
・大正

吉原周治、松井平助、佐藤正雄
桑原喜枝、丸山松江、石上リヤウ
相崎尚次、大矢福次、広井三代次
神林徳次、水内修治、佐藤量八
安達宗吾、横山秀雄、三重堀繁蔵
高橋清雄、星野三作、安達徳太郎
石黒みす
・昭和21/10

小川茂雄、山田雅子、小野塚まつ
山口ヨシ、松井重治、相崎勇次
吉井武二、芝 五郎、丸山千代野
安達 武、丸山 春、石黒佐忠太
藤田睦子、芋川とし、山口三郎
浅田鉄二、佐藤又次、相崎善次郎

（佐藤祐一さん）
安達幸一、小宮竹次、黒崎米太郎
勝又 功、黒崎孝造、大矢幸治
芝三四司、佐藤彦一、山口武一郎
堀井豊作、吉原菊枝、奥田佳子
森本比夫

・昭和11/20
山口信次、山口福次、高橋四郎
山田チエ、藤塚吉雄、山賀豊司
丹治きみ、浅田 猛、五十嵐忠作

佐藤敏雄、松下利夫、山田利雄、
佐藤道雄、山口光雄、小宮幸雄
西山和子、友田正雄、五十嵐貞雄
・昭和21/30
山岸慶昭、佐藤孝二、相崎達一
浅田六郎、石川春子、小野塚次郎
安達 敏、佐藤祐一 島貫ヨキ子
本田繁男、吉原 勉、藤塚浩治
本田正弘、黒崎 勝、大塚徳郎

・昭和31/32
大塚国夫、藤塚 悟、芝 満男
諸我時夫、吉井信三、浅田達夫



当日左記の方々より、ご芳志をいただきました。深謝申します。
 新潟県人会 太刀川太郎
 松井平助、黒崎孝造、広井三代次
 堀井豊作、吉原菊枝、三重堀繁蔵
 佐藤昭六、安達 武、丸山千代野
 浅田 猛、佐藤孝二、石川春子
 西山和子
 欠席の左の三氏からも
 沓沢とせ、鶴田国茂、山口盛作

青らん荘花の旅

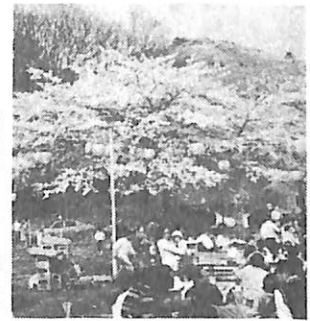
4月12・13日

朝から花ぐもり、傘をバッグに入れて東京駅へ。0時13分の沼津ゆきにみなさんと乗る。

湯河原駅に広井さんが出迎えにきてくださった。バスで青らん荘を通り越し、花見台までゆく。桜は今が正に満開である。茶店に腰をおろすと、おいしい甘酒の無料サービスがあった。花見客で山は大へんな賑わい。花を存分に楽しんでから山を下り青らん荘につく。ここの岩風呂は、何といても天下第一品で、いつ来てもあきることがない。



夕食前に記念撮影をして、宴会に移る。洗練された山田さんの踊りのど自慢の歌、盆踊りの輪ができて雰囲気はいよいよ盛りあがった。
 翌日は真鶴岬までゆき、三つ石の風光を心ゆくまで楽しんだ。青らん荘一帯の桜の美しかったことも忘れられないが、



上は花見台風景

ここはもう花吹雪だった。枝を揺すると、全身に花びらが雨のようになりかかる。

今日も朝からずっと、広井さんが案内をしてくださった。真鶴駅で一同手をふりふり、心のもつたもてなしに謝しつつ、帰途に着いた。雨は東京についてやっと降り出していた。

満ち足りた二日間の旅を、胸にいっぱいこめて家路に着いた。

参加者

丸山松江、相崎尚次、石上リヤウ
 佐藤量八、神林徳次、山口盛作
 安達宗吾、星野三作、日下部政子
 松井重治、相崎勇次、浅田喜八郎
 山口ヨシ、山田雅子、小野塚マツ
 小林敬司、芝 五郎、丸山千代野
 相崎マサ、黒崎孝造、勝又 功
 芝三四司、奥田佳子、高橋四郎
 山口福次、山田利雄、五十嵐忠作
 芝もと、山田美代治、広井三代次

同級会だより

○昭五会

例年強羅温泉で開いている。片貝のしゃぎりが、毎年大文字焼きの夜にとどろく。この紹介者が同級の山口三郎さん。山口さんの世話で、和気あいあいのうちに終わった。3月13・14日

○昭六会

奥利根に一泊、翌日は宝川温泉で清遊した。三十二名出席中、東京方面から十三名が参加、盛会だった。10月26・27日

○講春会

片貝と、関東から水上温泉に集って懇親会。十五名が参加したが、東京よりは六名。10月24・25日

○新辰己会

毎年上野の法華クラブで。四五名が参加したが、内片貝からも十八名出席、盛会だった。3月1日、黒崎敬五郎さん(昭6・昭六会)瑞雲書道会の主要役員である同氏はこの一月下旬に銀座の洋協ホールで、役員の一人として作品を発表された。地は郷里の紺仁が染めた草木藍と銀泥の上に、「正信偈」を金泥で書いたもの。鑑賞して思わず信を発するような出来ばえであった。

ふるさと便り

母校小学校のこと

中俣 島校長は定期異動で、県へ栄転。後任として上川西小学校から田口 信先生が着任された。私達卒業生には懐しい古い屋内運動場が、今年度中に改築されることになった。面目一新される日が、今から待たれる。

浄照寺改築 祝賀会

昨年暮に完工した庫裡と、会館の祝賀会が四月十九日本堂で、厳修された。読経法要の後、祝賀会が盛大に行われた。百六十名の参加者で、堂内は喜びの声で埋まった。

浅原神社の春祭り 4月24・25日
家の軒に多くの雪が残る状況であったが、境内だけは除雪して、賑やかに行われた。花火も十数発



演奏の星十字十楽団
(4月25日)

上った。

こんどのお祭りでは、一番人気は舞殿での各種催し物であった。民謡同好グループにより踊りと歌、素人はだしのマジック、楽団十字星の演奏など。この楽団は以前結成されたものが中断していたのを

会 員

近 況

高野三郎さん 旅行中に転んだのがもとで、体調不順となられて入院加療中。昨年の四月に米寿のお祝いがすんでから、まもなくのできごとだった。これまで病氣したこともなく、至って健康だったが、また元気な姿を見せていたきたい、と念じています。

丸山貴司さん 一昨年の総会に出席されたが、その後内臓手術のために入院、只今は自宅で静養されている。だいぶ元氣になられたがお好きな謡曲、小唄の指導もお休みになっている。丸山さんは基が打てるような日の到来を祈っています。

今回復活した。めざましいカムバックぶりは評判を呼んだ。雪の上での観覧だった。

佐藤和秀さんのこと

新年会記事にも触れておいたが昨年第22次南極越冬隊に再度参加されている。天体観測や調査に多忙であるという。九月から長い夜の期間に入えるが、来年三月二十

山賀豊司さん(昭16・威風会)

本業は建築業、趣味に習いおぼえた三味線に熱中して、腕もめきめき上達。結婚式やお祝いの席で好評を博しているとか。本会にもよく出席されており、最近では、近所の奥さん対象に、民謡教室も開いておられる由。ご精進を祈る相崎達一さん(昭22・緑友会)

こんど隣家の薬屋さんと、共同出資で6階建の、マンション兼住宅を建てられた。若い年代でなければできない壮挙である。四月末には、同級生がたくさん集って、お祝いの催しがあった。

黒崎 勝さん(昭28・新辰巳会)

昨年の総会で、青年部長をお願いしたばかり、この春の異動で宮

一日に大任を果して帰国の予定である。

水田土地改良工事

本年から六、七年かけて、魚沼線の来迎寺側の水田が工事となるすでに小千谷方面の田は完了しているの、こんど片貝方面が実施される。須川の改修は来年から、手がつけられるという。

城県の日本電気KKに栄転された。役を果せず、残念ですが、三年も経てば帰ってこれるでしょう、とのこと。

兄さんの正さんは、こんど任地の仙台から本社(湯浅商事)勤務になられた。青年部で活躍しているだけと有難い。共に同級会を中心的存在なので、悲喜交々というところ。

あとがき

新年会の写真は佐藤正雄氏、青嶺荘旅行では、星野三作氏の提供をいただきました。また、ふるさと便りの資料は片貝農協の友田明石氏よりいただきました。記してご協力に対してお礼申し上げます。よい季節となりました。会員の皆様のいっそうのご活躍をお祈りしています。(S)